



「第32回 碧鈴祭」を開催します！

大学祭実行委員会

11月12日(土)・13日(日)の2日間にわたり、第32回碧鈴祭(大学祭)を千代崎キャンパスにおいて、感染対策を講じたうえで3年ぶりに「対面」で行います。

今年のテーマは『笑面突破! ~飛び越えろ! 自分の限界~』です。コロナ禍により人との接触を避け、部屋で一人過ごす時間が長くなる中で、身近なところでも感染を耳にすることも増加しています。何かと上手く・思うようにいかない日々を過ごしていますが、このような時だからこそ閉塞感をぶち破り、学友と集い・学生生活を謳歌したいと考えている学生は少なくないと思います。そのきっかけとして「碧鈴祭」を位置付け、長期に渡る準備や企画・運営を通して、諸々立ちはだかる困難を乗り越え自分の成長の糧や学びに変えていきたい、碧鈴祭に関わるすべての人の笑顔へとつなげていきたい、との想いを「正面突破」になぞらえ本テーマにしました。

現在は碧鈴祭の開催に向け、先輩方が築き上げてきた伝統を守りつつ、より一層活気のある祭りとなるよう日々準備に励んでいます。

当日は、本学学生・教職員の他、高校生や地域の皆様をはじめとした学外の方にも本学の教育・研究の内容を知っていただけるような多彩なプログラムをご用意しておりますので、ご家族・ご友人等お誘い合わせのうえ是非ご来場ください。

❖ 碧鈴祭

＜開催日時＞ 令和4年11月12日(土) 10:00～17:00 / 11月13日(日) 10:00～16:00

＜開催場所＞ 本学千代崎キャンパス

＜イベント内容＞

・12日

【野外ステージ】サラナ保育園児による「和太鼓演奏」

【屋内ステージ】よしもとお笑いLIVE(入場無料・要整理券)・キャラクターショー

・13日

【教室】市民公開講座

【野外ステージ】大学祭実行委員会企画 / クラブ・サークル発表

【屋内ステージ】ゲストLIVE(入場無料・要整理券)



※新型コロナウイルスの感染拡大状況により、開催方法及び、実施内容・スケジュール等が変更になる場合がありますので、予めご了承ください。

※整理券の入手希望者は、当日の午前7時以降よりお並びください。整理券の配布は8時30分から行います。キャンパス内及び会場周辺での徹夜等、周辺施設や住民の方々の迷惑となる行為は、固くお断りします。

〈学生課〉

本学学生と鈴鹿市との意見交換会

9月6日(火)千代崎キャンパスにおいて、本学学生7名と鈴鹿市総合政策課との次期鈴鹿市総合計画策定のための意見交換会が開催されました。

鈴鹿市では次期鈴鹿市総合計画(令和6年度～13年度)の策定にあたり広く市民の声を聴取しており、その一環として将来を担う若い世代の声をまちづくりに生かしていくとの趣旨で市内の教育機関で7月から順次開催されました。

鈴鹿市総合政策課より、鈴鹿市が目指すゴールとそのための取組みをまとめたものが中長期的総合計画で最重要計画であること、聴取した意見を基に今後の方向性を決めていくことの説明を受け、学生は市が示した「子育て、教育、産業、環境、健康・福祉など11分野」の中より今後重要と思うものを選択し、進めてほしい取組みとその理由を発表しました。学生からはすべての分野において意見が出され活発な意見交換が行われました。また、10年後の自分を思い描いて、どのような鈴鹿市になってほしいか率直な意見を発表しました。

鈴鹿市からは、今回の経験を生かし今後も若い世代の声を行政に届けるためにも、まちづくりの取組みに積極的に参加してほしいとの意見をいただきました。

〈企画広報課・学生課〉



学生参画型「教育改革委員会及びFD推進委員会」を開催

教務・教育改革担当副学長 片山 直之・FD推進委員長 田口 博明

2018年度から開催している学生参画型の「教育改革委員会及びFD推進委員会」を8月5日(金)に開催しました。

学長はじめ教育改善に関わる教職員で構成される両委員会に、教育改善委員として任命された学生12人が参画し、以下の議題について活発な意見が挙がり、具体的な教育改善に関する方策等について議論ができました。

1. 3つのポリシー等の教育目標から見て教育が適切に行われているかについて
2. 学生による授業評価をどのように教員の授業評価に結びつけるかについて
3. 遠隔授業(Zoom)およびe-learning(learningBOXなど)について
4. 教育に関する改善点について

学生教育改善委員からの意見に対し、授業改善に組織的に取り組む必要性、SUMS-POやlearningBOX、Zoomによる学修支援の活用方法、授業評価の実施方法など、多岐にわたって意見交換し、重要な気づきにつながる委員会となりました。

今回の意見を参考に、カリキュラムの内容・学修方法・学修支援、そして学修成果に関する改善を検討することとし、今後も学生が主体的に改革・改善にかかわる仕組みを取り入れていきたいと思っています。今回参画してくれた学生教育改善委員の皆さんにとっても、この機会を今後に生かしてほしいと思います。



タイ王国 コンケン大学医学部との学術連携協定の更新について

薬学研究科長 飯田 靖彦

本学大学院薬学研究科では、教育及び研究の活性化を推進する目的で2016年10月にタイ王国コンケン大学医学部と学術連携協定を締結しましたが、このほど両大学間の交流や共同研究プログラムの編成、学術情報の交換を進めるため、協定の更新に至りました(2022年10月4日付 有効期間5年)。コンケン大学との連携は、本学の国際化と人材育成の強化に大きく貢献することが期待されます。



三重県臨床検査技師会より感謝状をいただきました

保健衛生学部 医療栄養学科長・臨床検査学専攻長 米田 操

5月29日(日)三重県教育文化会館にて一般社団法人三重県臨床検査技師会総会が開催され、本学に日頃の技師会活動と功績を称え感謝状が授与されました。本学代表として副学長である森下芳孝先生が技師会会長の山本幸治先生より授与されました。誠にありがとうございました。

保健衛生学部臨床検査技師養成課程が開設されて以来、はや11年になります。これまで、三重県臨床検査技師会の活動に協力させていただきました。この授与は三重県医学検査学会、厚生労働省タスクシフト研修会、検査と健康展、学術部勉強会等を本学で開催できたおかげだと思います。これらの開催には、多くの本学学生、教員が参加して勉強させていただいています。学生にとっては、将来の臨床検査技師像を考える貴重な学びの場となっています。今後、臨床検査技師の業務が拡大する中、三重県臨床検査技師会に協力しながら地域医療に貢献することが重要と思っております。



森下副学長（左）と山本会長

<臨床検査学専攻>

リハビリテーション学科 高橋猛教授が受賞

保健衛生学部 リハビリテーション学科 助教 伊藤 和寛

この度、リハビリテーション学科の高橋猛教授が、公衆衛生事業功労者大臣表彰を受賞されました。以下に先生のインタビューを紹介します。

Q1ーまず、「公衆衛生事業功労者大臣表彰」とはどのようなものか教えてください。

A1ーこの賞は、公衆衛生事業のために献身的な活動を続け、功績が顕著で他の模範となる者を厚生労働大臣が表彰するものです。

Q2ー先生は三重県理学療法士会の要職を長年に渡りお務めいただきました。しかし、同様の職責を務めた全ての方が本賞を受賞されるわけではありません。受賞の決め手になった先生の活動を教えてください。

A2ー私は、平成23年から三重県理学療法士会の会長を4期8年務めました。任期中にはまず、地域包括ケアシステムの構築に向けて三重県医療保健部長寿介護課と連携し三重県リハビリテーション情報センターを設立しました。また、介護予防事業の一環としてダイハツ工業株式会社・松阪市・三重県理学療法士会による高齢者向けの健康安全運転講座を開催することもできました。さらに、亀山市において元気な高齢者が地域の介護予防の担い手となるべく、体操指導士養成事業にも取り組み、新たな介護予防事業の構築も目指しました。これらの取り組みを高く評価いただいた結果かと考えています。

Q3ー先生は令和元年に日本理学療法士協会会長賞、令和2年に公衆衛生事業功労者知事表彰に続き今回の受賞となりました。先生のこれまでの活動が評価され嬉しく思います。誠にありがとうございます。

A3ーこれらの受賞は、私一人の力ではなく多くの方々のおかげです。また、このような活動は大学の許可、学長のご理解をいただければ取り組むことはできませんでした。ご理解、ご協力いただいた本学関係各位に深謝いたします。ありがとうございました。



<理学療法学専攻>

「救急・健康フェア2022」が開催されました

9月11日(日)白子キャンパスにて、「救急・健康フェア2022」が開催され、約450名の方が来場されました。このイベントは、鈴鹿市・鈴鹿市消防本部が主催し、市民の皆さまに救急と健康に関する理解と認識を深めていただくことを目的に3年ぶりに開催され、学官連携の一環による本学での開催は4回目となりました。

会場では、オープニングイベント「三重ホンダヒートとタオルストレッチをしよう」や「あなたの健診結果を見せてください（鈴鹿市医師会）」をはじめ、各ブースとも賑わいを見せていました。本学からも、11の学科と専攻がブースを設けて参加し、市民の皆さまに健康維持に役立つ情報をお伝えしました。 <学生課>



鍼灸サイエンス学科
「ストレッチと温灸で心身リラックス」



救急救命学科
「救急車の中、覗いちゃおう！」

SUMS ヘルシーキッチンスタジオを活用した 薬膳クッキングClassを開講

保健衛生学部 鍼灸サイエンス学科 助教 宮脇 太朗

今回初の実施となる「薬膳クッキングClass」は、薬膳の知識をつける講義に加え、調理実演や、調理実演で紹介したレシピにもとづいた薬膳特別ランチも楽しめる内容で、8月21日(日)に開催しました。

調理実演は、本学東洋医学研究所1階にある「SUMSヘルシーキッチンスタジオ」を活用し、「季節の食材を用いた調理実演」と題して、村林新吾先生(元相可高等学校食物調理科教諭、本学客員教授、日本薬膳学会顧問)と西岡宏起先生(相可高等学校食物調理科教諭)により調理実演をご披露いただきました。普段なかなか聞くことの出来ない食材の裏話や調理の基本についても解説があり、参加者の皆様は熱心な眼差しでメモを取りなが



村林先生(右)によるレシピ解説

ら聞き入っていました。実演終了後には、家庭での実践に向けて熱心な質問が飛び交っておりまして。「薬膳特別ランチ」は、黙食の中での昼食となりましたが、実演で紹介したレシピにもとづくものだけあって、参加者の皆様からご満足の声を多く頂けました。

講演では、「食養生について私が受け継ぐもの」と題して、王桂鳳助手(鍼灸サイエンス学科)に、中国で育った経験を元に、中国国内における地域による食文化の違いや、日本に来てからの食文化の違いをお話頂きました。

今後も地域の皆様が、薬膳や食養生を学べる場を提供していきたいと考えております。



夏・秋野菜の胡麻あんかけ、萩真薯 清汁仕立、焼き茄子ご飯、トマト豆腐(時計回り)

伊勢志摩・里海トライアスロン大会 学生が救護活動に参加

保健衛生学部 鍼灸サイエンス学科 助教 長岡 伸征

9月24日(土)に志摩市浜島町で開催された伊勢志摩・里海トライアスロン大会で鍼灸サイエンス学科の学生2名が救護活動を行いました。本大会は競技距離51.5km(スイム1.5km、バイク40km、ラン10km)の大会で、例年、約800名の方々が参加されています。競技が大変ハードであり炎天下の中で実施される大会であることから、競技中の接触事故による傷害や熱中症が多く発生するため、迅速な対応を求められる大会でもあります。

今回、本学科鍼灸・スポーツトレーナー学専攻の学生2名および教員2名が本大会の救護班として活動に参加させて頂き、スイムおよびバイクパートでは救護テントにて医師や看護師の方々の対応補助や見学、ランパートでは自転車でのコース巡回および選手



参加した鍼灸・スポーツトレーナー学専攻の学生

まだ活動経験の浅い学生達だったため、最初はどのように選手の方々に接すれば良いのか、対応すれば良いのかわからない状態でスタートした活動でしたが、医師や看護師、トレーナーの方々が活動している様子を見て、最終的には積極的に選手の方々とコミュニケーションを取りながら、自分達ができることを一生懸命行っている姿がみられました。その甲斐もあったためか、幸いなことに、今大会では緊急性の高い重篤な症状を訴える選手はおらず、大会を無事終えることができました。

トレーナーとして選手と関わる上で、現場では迅速で適切な救護対応が求められます。今後も本活動の様な活動を企画し、少しでも学生達が経験・成長できる場を設けていきたいと考えています。



ランパートで救護の様子

管理栄養学専攻 ラグビー選手の「栄養見守り」について

保健衛生学部 医療栄養学科 准教授 大槻 誠



本学管理栄養学専攻の3年生有志27名が、鈴鹿市を本拠地とするラグビーチーム「三重ホンダヒート」に所属する若手選手を中心に9名の栄養指導を行うことになり、8月3日(水)に両者の初顔合わせがありました。この取り組みは学生が栄養面からチームをサポートすることで、選手の強化や怪我の予防につなげようという全国的にも珍しい試みです。

管理栄養士を目指す学生が3人1組で1人の選手とチームを組んで、選手からコミュニケーションアプリに投稿された食事の写真をしながら栄養面でアドバイスをを行います。

この日は自己紹介に次いで、事前に測定した選手の部位別の筋肉量や体脂肪量などのデータを基に、普段の食生活や食べ物の好き嫌い、生活のリズムなどについて聞き取りました。

同世代の学生による食事のサポートが選手のモチベーションの向上にもなり、学生もトップ選手と関わりを持つことで管理栄養士の資格取得へのモチベーションが更に高められると期待しています。

【取り組みについて】

■目的

- (1) 怪我の予防などコンディションに直結する栄養指導を徹底し、選手のパフォーマンスを向上させる
- (2) 管理栄養士を目指す学生にトップアスリートとの交流、実践経験の場を提供する

■取り組み内容

- (1) チーム全体への栄養指導 (2) 選抜された選手への個別栄養指導
- (3) 精密測定器 (InBody) を用いた体組成測定

■実施期間：2022年8月～2022年12月まで (予定)

<管理栄養学専攻>



キャンパス農園 (SUMS 自然農園) の取り組み

保健衛生学部 医療福祉学科 准教授 合田 盛人

第7回 2021 年度教育研究会で教育改善提案させていただきました「キャンパス農園 (SUMS 自然農園) の設置」について、施工業者との打ち合わせ見積り等を重ね、8月16日(火)に着工、8月26日(金)に完成しました。農園は、千代崎キャンパスのA棟とB棟の間にあり耕作面積は18m²です。B棟1階ラウンジ外に新設のスロープを設置し、防草シートを一直線にすすむと圃場入口に専用のプランターがあり、車いすの学生も農作業ができるようになっています。SUMS 自然農園のテーマは「自然農園から共生社会の実現をめざして」です。学生たちは、障がいがある方なども農業分野で活躍することで、地域の農業が発展し、すべての人が生き生きと暮らせる共生社会をつくる農福連携について学びます。また、国連の持続可能な開発目標 (SDGs) にも通じる取り組みとして、農薬や化学肥料を使わずに自然を尊重して野菜を栽培することで、人と自然とが共生できる社会の実現についても学んでいきます。農福連携をすすめる福祉施設の方や、農業、福祉、SDGsに関心のある高校生とも協働していきたいと考えています。さっそく後期のゼミで、大根とジャガイモと小松菜の種まきをしました。

さらに、白子キャンパスに隣接する特別養護老人ホーム桜の森白子ホームが開設当初から運営している「桜の森のうえん」とも連携して、高齢者の生きがいづくりを中心とした園芸福祉についても学んでいきます。

なお、SUMS 自然農園の活動状況については、医療福祉学専攻公式Instagram「fuku.no.ne_style」にて紹介しています。

<医療福祉学専攻>



ボランティアセンター 学外清掃活動 (3回目・4回目) の実施

8月30日(火)と9月29日(木)に学生ボランティアが学外清掃活動を行いました。

今年度3回目は朝から怪しい空模様でしたが、天候に関係なく集合した学生一人一人に覇気が感じられました。今回の活動では総勢15名の学生が参加し、通学路や田古知川周辺の清掃活動を行いました。一見綺麗に見えていた通りですが、約1時間の活動で多くのゴミを集めることができました。活動を通じ学生同士の交流も楽しむことができ、心地よい達成感を感じる活動となりました。



4回目では秋らしい風の吹く中、初めて参加する学生は「こんなにもゴミが落ちていたのか」と驚いていましたが、以前参加した学生は「前よりもゴミは減っている」と嬉しそうに話していました。月に1度の継続的な清掃活動で大きなものは少しずつ減ってきましたが、ペットボトルやビン・缶などの飲料容器や、テイクアウトした空箱や包み紙はまだ多く捨てられており、学生たちの持つ袋には沢山のゴミが集まりました。

今後も学生と共に、継続的に環境保全活動に取り組んでいきます。

<ボランティアセンター>

「みえライフイノベーションシンポジウム」展示会に出展

医用工学部 医療健康データサイエンス学科長 鶴岡 信治

9月18日(日)三重県教育文化会館にて、「みえライフイノベーションシンポジウム」が開催され、本学からは医療健康データサイエンス学科が「展示会」に出展し、約70名の来場者が訪問されました。

このシンポジウムは「みえメディカルバレー構想」の取組の一部で、令和4年度から「みえライフイノベーション総合特区(3期)」が始まることを多くの方に知っていただくために、三重県主催・三重県産業支援センター後援で開催されました。シンポジウムの目的は、ヘルスケア産業への県内企業の参入やライフイノベーションへの関係機関の参画を促進するとともに、県内企業や研究機関が持つシーズと医療・福祉現場が抱えるニーズとのマッチングを目指しています。講演や展示会は、最新のヘルスケア産業動向、同産業におけるデジタル化の進展、県内の取組事例紹介等であり、参加者は熱心に意見交換を行いました。

本学の展示会でのテーマは「医療系データサイエンティストの教育」で、社会の課題を解決するために、医療データを使用する意欲的な試みを紹介し、社会ニーズの大きさと将来の発展性を肌で感じることができました。今後、社会と連携し、社会のデジタル化、AI・データサイエンスの進展を推進する人材を育成することの意義を再認識しました。

データ・IT技術者のキャリア形成に関する講演会を開催

医用工学部 医療健康データサイエンス学科長 鶴岡 信治

医療健康データサイエンス学科の卒業生は、多様な職種の方と連携を取って、仕事を行わなければなりません。そのため、データを利活用し、優れた業績を挙げてきた経験者による講演会を実施しており、その中の2つの講演会について説明します。

(1)「キャリアデザイン(2年前期)」では、日本航空株式会社(整備職、運航技術、技術研究所、経営企画室)、株式会社JALインフォテック、JALUX Americas Inc.(米国ロサンゼルス市)(CEO)などを歴任し、10冊以上の著書のある、松山真一氏を講師に迎えました。講演題目は「大切なことはキワにある」で、データサイエンスに役立つ力、キャリアデザインに役立つ秘訣について、ユーモアあふれる講演をしていただきました。



松山氏による講演

(2)「医療健康データサイエンス入門(2年前期)」では、トヨタ自動車の電算部において、ITによる物流管理・組織運営、トヨタ自動車の米国カリフォルニア州のNUMMI(ヌーミ)の管理者を経験され、現在、NTTとIBMの合併会社であるエヌアイシー・ネットシステム株式会社の専任部長である、小山幸雄氏に講演をお願いしました。題目は、「IT技術者の仕事とは—ICT社会での役割—」で、IT技術者として世界中の活躍し、異業種でも歓迎されるキャリア形成についての経験を楽しくお聞きしました。

第68回東海公衆衛生学会学術大会を開催して

看護学部 看護学科 准教授・公衆衛生看護学 谷出 早由美

本大会は豊田長康学長が大会長を務め、7月2日(土)に白子キャンパス6号館、4号館で開催しました。準備は6学科による先生方で実行委員会を結成し検討を重ねました。多職種連携、データ利活用をキーワードとし、テーマを「コロナ禍と多職種連携—現場の取り組みと今後の課題—」としました。当日は、医師、保健師、栄養士、薬剤師、臨床心理士、理学療法士など178名の参加があり、第6波が収束に向かっている時期にあったこともあり、ハイブリッドでの開催でしたが多くの方に本学を訪れていただきました。

特別講演は、厚生労働省新型コロナウイルス感染症アドバイザーボードなどを担われている川崎市健康安全所長 岡部信彦先生より、「新型コロナウイルス感染症(COVID-19)—これまでとこれから—」と題して、ウイルスの変異や置き換わり、今後の見通しについてご講演をいただき、医療機関や保健所などがどのように舵をとれば良いのかを考えました。また、シンポジウムや一般演題の発表により、コロナ禍における健康への影響について情報共有をしました。2年半以上に続く新型コロナウイルス感染症の影響は子どもから高齢者のすべてのライフステージにおいて、精神面、身体面などで影響があり、回復のためにも公衆衛生、医療、福祉などの連携が一層必要であり、Withコロナとして考えるべきことが多いと実感した学会でした。ご協力いただきました皆様に感謝いたします。

第68回東海公衆衛生学会学術大会で臨床心理学専攻4年生が発表

保健衛生学部 医療福祉学科 臨床心理学専攻長 大橋 明・准教授 中西 健二

7月2日(土)に第68回東海公衆衛生学会学術大会が本学白子キャンパスで開催されました(大会長:豊田長康学長)。大橋ゼミ・中西ゼミに所属する4年生は、大学生の新型コロナワクチン接種意向(接種したい、接種したくない)がどのような要因と関連しているのかについて、示説(ポスター)発表を行いました。

山出さくらさん(写真右)はワクチンに関する情報の発信源に着目し、ワクチンを接種したいと考えている学生ほど、マスメディアが発信する副反応に関する情報よりも、身近な人からの副反応に関する情報に関心を向けていることを紹介しました。多々良来未さん(写真左)はワクチンに対する認知に視点を向け、ワクチンに効果がある・ワクチンは安全であると認知する学生は、ワクチンを接種したいと考えていることを提示しました。



二人にとって初めての学会発表でしたので、ともに大会の数週間前から発表の準備を始めました。既に出していた分析結果の再確認から始まり、参加者にいかにわかりやすく見やすいものにするか試行錯誤し、前日まで必死にポスターを作成していました。当日は在席義務時間が30分ありましたが、1時間を超えてポスターの前で説明し、質問にも一生懸命答えていました。

二人は根拠を元に論じること、相手に理解できるように説明することの大切さを学んだようで、大変いい経験になったと喜んでいました。今回の学会発表の経験が、今後二人の人生にとって大きな糧となると確信しています。

なお本研究は、同専攻4年生の中川未結さん、橋本ひなたさん、山本ひとみさんとの合同研究です。

「地域医療シンポジウム In SUMS 2022」を開催



9月6日(火)に白子キャンパスにおいて志摩市民病院の先生方をお招きして「地域医療シンポジウム In SUMS 2022」を開催しました。

志摩市民病院は過疎化が進む地域で医師不足などから廃院寸前のところ、院長・スタッフの情熱により地域の中核病院まで回復したことでテレビ番組でも特集された病院です。

江角院長をはじめ、訪問看護師、地域包括ケア看護師、薬剤師、理学療法士、医療ソーシャルワーカーの先生方にご登壇いただき、オンラインも活用しながら約80名の学生が参加しました。(薬剤師・理学療法士は本学の卒業生でした)

最初に江角悠太院長から「コミュニティホスピタル」についてご講演いただきました。日本の人口変化についての説明の後、「少子高齢化が進む日本では、現状のままだと鈴鹿市もそのうち志摩市と同じような状況になる。そのときに社会が何を必要としているのか考えなければならない。大病院は超急性期に特化される。それ以降の患者のケアは地域の病院が『コミュニティホスピタル』として担っていかなければならない」と話されていました。

続いて、様々な職種の先生方から、住み慣れた地域で最期まで安心して医療を受けることが出来るように、地域の医療を守るためにどのように向き合っているのかなど、丁寧に教えていただきました。

ご協力いただきました志摩市民病院の先生方に心よりお礼申し上げます。

以下は参加した学生の感想です。

■ 地域医療についてインターネットで検索するといくらでも記事はあります。しかし、今回のように実際に現場で働いている方の声を聞ける機会はなかなか無い貴重な経験のため、この講義に参加出来て本当に良かったです。

(放射線技術科学科1年 藤田穂乃実さん)

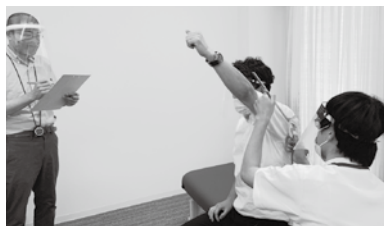
■ 大学では聞けないお話を聞けて興味深かったです。大学の先生とは異なった視点で話されていて、他の方向からの視点を得ることが出来ました。

(薬学科1年 前村奈那さん)

<就職・キャリア支援課、白子学生・就職課>

臨床実習に向けたOSCE（客観的臨床能力試験）を実施

保健衛生学部 リハビリテーション学科 助教 野口 佑太



8月5日(金)にリハビリテーション学科作業療法学専攻において、3年次臨床実習に向けたOSCE(客観的臨床能力試験)を実施しました。OSCEは、1975年に英国のR.Hardenらにより提唱され、医師および医学生の臨床能力(臨床実技)を客観的に評価するために開発された評価方法です。わが国では1992年に初めて導入され、医師や看護師をはじめ作業療法士等の医療職の教育にも導入されつつあります。OSCEは、採点者および模擬患者が配置された試験室を順次、受験生(学生)が試験を受け回る形式であるものが多く、本専攻にお

いても教員が模擬患者役となり試験を実施しました。試験項目は、「コミュニケーション・態度」、「関節可動域測定」、「筋力測定」、「触覚検査」、「Br-Stage検査」の5項目としました。

試験日を迎えるにあたって、学生は自主的に練習を実施したり、教員に質問したりと熱心に取り組む様子がみられました。当日は、良い緊張感の中で、これまでに学んだ知識と技術を遺憾無く発揮し、OSCEを通して臨床実習を行うために必要なことを再認識したと思います。学生ひとりひとりが学内で学んだことを臨床実習で活かし、多くの学びを得てくれることを期待しています。

＜作業療法学専攻＞

臨床実習報告会を開催

保健衛生学部 放射線技術科学科 教授 武藤 裕衣

本学科では現在4年生が4月末～7月中旬にかけて臨床実習を実施しています。先輩の学びを後輩に引継ぎ、個々の経験を皆の学びとするため、8月2日(火)に4年生と3年生合同での臨床実習報告会(オンライン形式)を実施しました。4年生と3年生計約240名が5つの会場に分かれ、4年生が「臨床実習で学んだことと、3年生に伝えたいこと」をテーマに4分間のプレゼンテーションを行いました。報告会后には、参加学生に振り返りと気づき、今後の行動目標についてレポートを作成していただきました。報告会後のアンケートでは回答した3年生全員が「来年度の臨床実習の参考になった」と回答し、98%の学生が「臨床実習に向けた学習意欲が上がった」と答えました。



併せて、参加学生全員および教員投票の結果、優秀発表者として16名が受賞されました。

受賞者の皆さんには、9月5日(月)に「臨床実習報告会受賞者発表会・表彰式」を開催し、再度3年生に向けて発表の場を設けました。終了後は、3年生はもちろん、4年生から「〇〇さんのプレゼンはとても分かりやすかった」「どうすればもっと自分のプレゼンが良くなるか先生の意見を聞かせてほしい」など、自身の将来の成長を目指した積極的な意見が聞かれました。

なお、現1年生は新カリキュラムのため、3年生の後期から臨床実習が開始されます。現在、学科では新カリキュラムに向けた学内実習環境およびシミュレーション教育体制の整備を開始しています。

受賞者一覧(敬称略) ☆最優秀賞：井上陽香 ☆優秀賞：稲場新菜、大崎竜輝、喜屋武史織、見生彩乃、斎藤南帆、島崎豪、新谷祐斗、関口涼太、妹尾亮汰、竹内きらら、服部姫由、樋口美瑛、堀田珠里、前 琴子、真下翔衣

三重県版SDGsスクエアの紹介

保健衛生学部 救急救命学科長 鈴木 哲司

ESDとは、Education for Sustainable Developmentの略で「持続可能な開発のための教育」と訳されています。持続可能な社会づくりの担い手を育むため、現代社会における地球規模の諸課題を自らに関わる問題として主体的に捉え、その解決に向けて自分で考え、行動する力を身に付けるとともに、新たな価値観や行動等の変容をもたらす大学教育が求められています。これらの教育をアクティブラーニングの手法を用いて本学科の学生に行う教材研究のため、志摩市役所で開催された「SDGsスクエアファシリテーター養成講座」に参加してきました。

「SDGsスクエア」とは、松阪市のNPO法人「Mブリッジ」が三重県の公開されている公共データをもとに製作。内容は、SDGsの17目標にまつわる三重県の情報です。SDGsに関するクイズを通して、地域課題の現状について気軽に学べるカードツールです。

国連の持続可能な開発目標(SDGs)の実現のため、三重県の統計を用いてクイズ形式で課題を浮き彫りにする34枚のカードです。大学の授業で活用することで、SDGsや地域課題を自分ごととして考えるきっかけを提供し、主体的に地域に関わる学生を育むことができる優れた教材です。本学科の学生には「課題解決演習」の授業にて行う予定です。



教育支援の会「オンライン保護者懇談会」を開催

教育支援の会では、保護者の方に学生の様子や大学の状況をご理解いただくことを目的として、毎年「保護者懇談会」を開催しています。

今年度は10月2日(日)に、新型コロナウイルス感染防止対策としてオンライン(Zoom)での懇談会を開催しました。

3度目となるオンライン保護者懇談会では、10学科14専攻の約400名の保護者の方にご参加いただき、学生の履修状況や進路・就職に関すること、そのほか新型コロナウイルスの感染防止対策などについてご質問いただきました。

今年度のオンライン保護者懇談会についても、保護者の方のご協力によりトラブルなく終えることができました。

＜学生課＞



先輩薬剤師と薬学部生の「オンライン交流会」を実施

薬学部 薬学科 教授 西田 圭吾

8月19日(金)に、薬学部の学生部と就職・キャリア支援委員会の共同で「先輩薬剤師と薬学部生のオンライン交流会」を実施しました。例年、薬学部では就職支援の一環として薬学部卒業生を中心とする先輩薬剤師を招聘し、在校生との交流の機会を設けています。今年はブレイクアウトルーム*を利用したオンライン形式で5年生を中心とする薬学生との交流を図りました。今年度、薬学部卒業後の就職先には様々な選択肢があることを知っていただくために、招聘した先輩薬剤師の業種は、病院・薬局だけでなく麻薬取締官(公務員)、アカデミア、大学院への進学など多様なポジションに就いている先輩方をお招きしました。学部生はオンライン形式のコミュニケーションにも慣れてきており、ブレイクアウトルーム内で直接先輩薬剤師にコンタクトしたり、チャット機能を利用したりして積極的に質問する場面もみられました。各業種における具体的な薬剤師の仕事内容に関する質問だけでなく、学生時代の勉強・研究、就職活動など幅広く先輩薬剤師からアドバイスをいただけたようです。

参加した学生からは、いろいろな業種のリアルな話が聞けて良かった、就職だけでなく国試対策についても聞くことができたなどの声が多くあがりました。また、交流会を通して薬剤師の多様性あるキャリアを知っていただく機会となり、将来の選択肢の幅が広がったのではないかと思います。

最後に、本オンライン交流会の企画・運営に携わった関係者の皆さまに、この場を借りて、お礼申し上げます。

*ブレイクアウトルーム：オンラインの参加者を少人数のグループに分ける機能。今回の交流会では6名の先輩薬剤師を6ルームに分けて、各ルームに薬学生が10名程度収まるよう設定した。

病院説明会に出席して

医用工学部 臨床工学科 4年 八幡 一輝



5月12日(木)、6月2日(木)に行われた病院説明会に出席しました。1回目は聖隷三方原病院の保科充紀先生にお越し頂きました。保科先生は本学出身で臨床工学技士の先輩です。聖隷福祉事業団は211施設を有する大規模な医療機関で、医療機器の集中管理、人工心肺、ダ・ヴィンチ手術業務、透析業務、心臓カテーテル業務、心臓植込デバイス業務など幅広く約200人の臨床工学技士が活躍しています。私は「キャリアプラン」が特に印象に残りました。新人技士には先輩技士が一人付く丁寧な指導と、個別の指導プログラムを立てていただけるので十分な教育制度が整っていると思います。医療機器等の設備が充実しており、キャリア形成にはとても理想的だと感じました。

2回目は、偕行会セントラルクリニックの上野彰之先生にお話し頂きました。21施設を擁する偕行会はきわめて質の高い透析医療を目指しておられ、患者生存率も全国平均を上回っているそうです。また、インドネシアで透析の新規事業にも携わっておられます。そこで透析浄化装置、透析栄養療法、透析運動療法を指導され、透析回路を組むのに現地での部品調達など試行錯誤の結果、腎不全の死亡率を10%台にまで減少できたと伺いました。また、企業と連携して新透析システムの開発にも取り組んでいるそうです。私は偕行会が導入している炭酸泉と運動療法に興味を持ちました。炭酸泉は透析患者の末梢動脈疾患の対策として行われ、約8割の方が足切断を回避できたという大きな結果を出しています。運動療法は透析にかかる4～5時間、体力や筋力の低下を防ぎ、透析の質を上げる効果があるそうです。その他、病院でのコロナ対策など様々な話を伺い、臨床工学技士を目指す私にとってとても為になる講演でした。有意義な病院説明会を開催して頂き、今後の就職活動に活かしていきたいです。

大学からのお知らせ

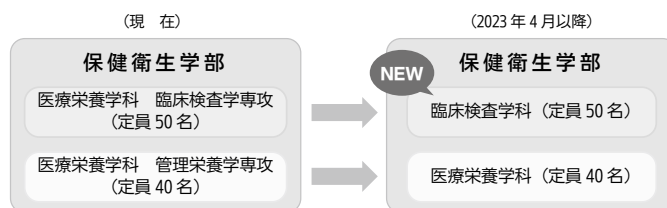
令和5年4月 保健衛生学部 臨床検査学科を開設

本学は、令和5年（2023）4月に保健衛生学部医療栄養学科を改組し、現在の医療栄養学科臨床検査学専攻を学科として独立させ、保健衛生学部「臨床検査学科」を開設します。

学科概要

- 名称■ 保健衛生学部 臨床検査学科
- 開設時期■ 令和5（2023）年4月
- 入学定員■ 50名
- 修学年限■ 4年
- 設置場所■ 千代崎キャンパス（1年次は白子キャンパス）
- 取得可能な資格■ 臨床検査技師（国家試験受験資格）

※カリキュラムや入学選抜内容に変更はありません。



医用工学部 医療健康データサイエンス学科 専攻を新設

医用工学部 医療健康データサイエンス学科では、令和5年（2023年）4月に「データサイエンス学専攻」と「診療情報管理学専攻」を設置します。当学科在学生は、めざす資格や将来の進路希望に応じて2年次後期から2専攻に分かれます。

専攻概要

■データサイエンス学専攻■

医療・健康・福祉分野はもちろんのこと、幅広い領域におけるデータサイエンティストをめざします。

◎目標とする資格・検定試験

情報処理技術者試験（基本情報技術者、応用情報技術者）、統計検定（データサイエンス基礎）、医療情報技師、医療情報基礎知識検定試験

■診療情報管理学専攻■

診療情報管理士資格を取得し、医療機関等で活躍する診療情報のスペシャリストをめざします。

◎目標とする資格・検定試験

診療情報管理士、医療秘書技能検定試験（3級・2級）、医師事務作業補助者（ドクターズクラーク）

《参考》◎両専攻共通で目標とする資格・検定試験

情報処理技術者試験（ITパスポート、情報セキュリティマネジメント試験）、統計検定（4級・3級）

※入学時において専攻分けは行わず、2年次に希望に応じて専攻を決定

＜企画広報課＞

第12回薬学セミナーを開催

薬学部 薬学科 助手 田中 章太

9月15日（木）の第12回薬学セミナーで、本学薬学科の中枢神経薬理研究室の郡山恵樹教授と薬理学研究室の古川絢子助教が、以前から遂行されている中枢神経研究について、近年の成果を中心に発表されました。

郡山先生は、「ナニコレ？からはじまる中枢神経保護研究」というタイトルで発表を行われました。まず、網膜色素変性症の発症機序と治療戦略について、分かりやすく解説して頂き、さらに、糖尿病に由来するアルツハイマー病の新たな発症機序について、実験データを示されました。今回報告された網膜色素変性症やアルツハイマー病の新規発症機序は、これらの疾病に対する新たな治療法の開発に繋がると考えられます。

続いて、古川先生には、「加齢性神経変性疾患に関連するタンパク質の探索・同定ープロテオミクスから分かることー」というタイトルで、プロテオミクス解析について詳細に説明して頂きました。加齢に伴う神経変性に関連するタンパク質について報告され、さらに細胞を利用した実験データでアルツハイマー病の進展に関わるタンパク質修飾についてのデータを示されました。

中枢神経やタンパク質の解説についての情報は重要であり、今回は先端的な手法について学ぶ機会が得られ、大変有意義な時間を過ごせました。お二人の先生方にはこの場をお借りして御礼申し上げます。両先生とも今後ますますのご活躍を祈念しております。

学生相談室通信

学生相談室カウンセラー 柘植 大治

はじめまして。学生相談室で毎週金曜日に勤務しています柘植大治です。後期の大学生活が始まりましたね。新入生の皆さんも大学生活にすっかり慣れたのではないのでしょうか？私も今年度から学生相談室で勤務していますが、業務には大分慣れてきました。一方で、自分の至らない点に気づかされ反省する機会も多いです。また、在学生の方は実習であったり、国家試験の勉強であったりをより意識する時期になってきたのではないかと思います。私も8月に国家試験を受けましたが、資格勉強はメンタルに良くないですね（笑）。そんな中で、改めて、辛くなった時には誰かに相談することや適度な息抜きがとても大切なんだなぁと感じました。

息抜きと言えば、今年の大学祭は学生の皆さんが模擬店を出して行うといった本格的なものだとお聞きしました。私も学生時代、大学祭は部活の模擬店や学科の出し物など色々参加しました。女子と仲良くなるぞと友人と息巻いて、LINEをたくさん交換するのに躍起になっていた気がします（笑）。大学祭マジックってすごいですよね。交換までは上手くいくんですけど、後日LINEをしても全く返信が来ない…。一方で、真面目に大学祭に参加していた友人ほど、クリスマスまでに恋人ができていますよね。社会の厳しさをしみじみと感じました。これはあくまでも私自身の体験ですが…。

皆さんの新たな出会いと幸せを陰ながら応援しています！楽しめる時間は大いに楽しんで、学生生活を有意義な時間にしてください。



「自給率は自救率？」

日本は「食料自給率が低い」と言う話を良く耳にするけど、これってホント？日本は食料自給率が38%だと言うんだ。ホントだったら、確かに大問題だよ。だって、食料の62%を外国に頼ってることだからね。「戦争や紛争で輸入が止まったら、日本人は生きて行けないぞ」なんて危機を煽ってる人もいる。でも、これって何かウソっぽいんだよね。だって、スーパーへ行ってごらんよ。野菜や果物のほとんどは国産だよ。魚だって、肉だって、外国産は少ないよ。お米なんてすべて国産だし、毎年作り過ぎで余ってるんだ。

それじゃあ、この低い自給率はどこから来たんだ？おじさんが前に読んだ本によると、世界の国々は食料自給率を生産額ベースで算出してるのに、日本だけがカロリーベースで算出してるというんだ。カロリーベースの自給率は何かって言うと、野菜とか肉とか牛乳とか、食べ物すべてを熱量（カロリー）に置き換えて、そのうち何%が国産かを示したものなんだ。

カロリーベースで計算すると、野菜や果物はほとんどが国産なのに、カロリーが低いために自給率にはほとんど反映しなくなってしまう。だけど、カロリーが高い小麦粉や油、砂糖はほとんどが輸入品なので、自給率を大幅に下げてしまうんだ。しかも、日本で飼育している牛、豚、鶏などは、飼料が外国産

だと外国産として計算することにしてあるので、地元三重県の松阪牛でさえ国産に数えて貰えないんだ。カロリーが高いもののほとんどが外国産だもんね。これじゃあ、自給率が低くなるのは当然だよな～。

外国から安い農産物や肉、乳製品が入ってきたら、日本の農業や畜産業は潰れてしまう。そうならないためには、外国の農産物に高い関税を掛ける必要があったんだ。貿易交渉で、「日本の食料自給率はこんなに低いんです。保護しなければ潰れちゃうんです」と説得する必要があったんだね。そのために、カロリーベースの食料自給率を発明するなんて、昔の日本のお役人は頭が良かったんじゃないの～。これには、おじさんも感心したよ。日本の自給率は、自国を救う「自救率」だったんだね。

今は、日本の農林水産省もカロリーベースの自給率だけではなく、世界の国々と同じように生産額ベースの食料自給率を発表するようになったんだけど、その自給率は何と70%近くになるんだという。農業大国のアメリカやフランスを除けば、ドイツやイギリスなど先進諸国とほぼ変わらないんだ。

「食料自給率が低い。日本の危機だ」なんて煽っているのは誰なんだ？あんまりいい加減なことを言うと、モーニングショーの玉川のおっちゃん（失礼！）みたいに、謹慎処分になっちゃうぞ～。

慢性疼痛で学ぶチーム医療（実践）体験型合同ワークショップを開催

慢性疼痛教育委員会 ワークショップ担当責任者
保健衛生学部 医療栄養学科 教授 山口 太美雄

8月17日(水)から3日間、慢性疼痛で学ぶチーム医療（実践）ワークショップを開催し、本学学生45名と三重大学医学部学生20名の計65名が参加しました。今年度は3年ぶりの対面形式で、新装の白子キャンパス1号館7階で実施しました。

第1日目は、三重大学の堀浩樹医学部長の開講挨拶に始まり、「痛みの考え方」、「アフリカの医療と慢性疼痛」の講義、次に専門の教員による鍼灸（写真1）、マインドフルネス、筋ロコモの実習が行われ、さらに模擬体験として「月で遭難した時にどうするか」を考えるコンセンサスゲームに参加してもらいました。

第2日目は、「医療者のチームを体験しよう！」をテーマにグループ活動を行い、その後「痛みとともに生活する人への相談援助」、食生活の重要性を学ぶ「中医学と薬膳」の講義が続き、さらに「腰痛予防・改善のためのストレッチ」の実習となりました。終了後は、過去に参加した先輩達で運営される「学生サポーターの会」との交流を行いました。



写真1 模擬実習（鍼灸）



写真2 患者事例検討
（ロールプレイング）

第3日目は、慢性疼痛の患者さんの病態や心理を把握し、治療方針をチームで考えるため、教員が患者と家族に扮したロールプレイング（写真2）を実施。学生が医療従事者役として説明と受け答えを行い、専門の教員がサブファシリテーターとしてアドバイスしました。

閉講挨拶では、豊田長康学長が「慢性疼痛教育の意義」を述べられ、改めてプログラムの重要性を実感しました。学生達の達成感や満足度は高く、来年はさらに内容が充実することでしょう。多くの後輩の皆さん達の参加を、お待ちしております！

※詳細は本学ホームページ what's new（2022年9月14日掲載）をご覧ください。

行 事 予 定

2022年11月～2023年1月

11月1日（火）・2日（水） 秋期定期試験と解説
5日（土） 補講日
7日（月） 秋期定期試験と解説
11日（金） 大学祭準備（休講）
12日（土）・13日（日） 大学祭
14日（月） 大学祭片付け（休講）
17日（木） 学校推薦型選抜（推薦）
千代崎：休講 白子：補講日
18日（金） 学校推薦型選抜（推薦）
千代崎：休講（立入禁止） 白子：休講
26日（土） 補講日
12月3日（土） 秋期追・再試験
10日（土） 補講日
17日（土） 学校推薦型選抜（指定校のみ）
総合型選抜3期
編入学試験第2回
20日（火） 補講日
27日（火）～1月5日（木） 冬季一斉休暇

1月6日（金）・10日（火）・11日（水） 補講日
12日（木） 後期定期試験
13日（金） 大学入学共通テスト準備
千代崎：休講（立入禁止） 白子：休講
14日（土） 大学入学共通テスト
千代崎のみ立入禁止
15日（日） 大学入学共通テスト
千代崎のみ立入禁止
16日（月）～20日（金） 後期定期試験
23日（月）～25日（水） 後期定期試験
25日（水） 薬学研究科学位審査発表会
26日（木） 一般選抜A日程準備
千代崎：休講（立入禁止） 白子：休講
27日（金） 一般選抜A日程
千代崎：休講（立入禁止） 白子：休講
30日（月）～2月3日（金） 後期・冬期定期試験と解説

※上記予定は変更になる場合があります。サmspおよびホームページで最新情報を確認してください。